

## 再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名 <small>おひひろ ひろお</small> 帯広・広尾自動車道 一般国道236号 中札内大樹道路 <small>なかさつないたいき</small>	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局					
起終点 自：北海道河西郡中札内村字協和 <small>ほっかいどうかさい なかさつない きょうわ</small> 至：北海道広尾郡大樹町北4線 <small>ほっかいどうひろお たいき</small>	延長 23.2km						
事業概要 帯広・広尾自動車道は、帯広市を起点として、中札内村、更別村、大樹町を經由し広尾町に至る延長約80kmの一般国道の自動車専用道路である。 このうち中札内大樹道路は、高速ネットワークの拡充による地域間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、物流効率化等の支援を目的とした、中札内インターチェンジから忠類大樹インターチェンジに至る、延長23.2kmの事業である。							
H7年度事業化	H1年度都市計画決定	H20年度用地補償着手	H20年度工事着手				
全体事業費	約415億円	事業進捗率	72%	供用済延長	0.0km		
計画交通量	4,500～6,800台/日						
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.2	総費用 (残事業/事業全体)	149/471億円	総便益 (残事業/事業全体)	348/548億円	基準年 平成24年
	(残事業)	2.3	事業費：104/409億円 維持管理費：45/62億円	走行時間短縮便益：271/427億円 走行経費減少便益：50/77億円 交通事故減少便益：27/45億円			
感度分析の結果 事業全体および残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.0～1.3(交通量±10%) 事業費：B/C=1.1～1.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2～1.2(事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=2.1～2.6(交通量±10%) 事業費：B/C=2.2～2.5(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.3～2.3(事業期間±20%)							
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①主要都市間の利便性向上 ・帯広市と広尾町間の所要時間が短縮され、地域住民の利便性向上や地域間交流の活性化が期待される。 ②重要港湾十勝港への利便性向上 ・重要港湾十勝港との安定した輸移入が確保され、物流の効率化が期待される。 ③救急搬送の安定性向上 ・高次医療施設への救急搬送の速達性及び安定性向上が期待される。 ④地域医療の安定性向上 ・通院負担の軽減や周産期医療の安定性向上が期待される。 ⑤日常活動圏中心都市への利便性向上 ・交通円滑化や定時性確保など、日常活動圏中心都市への利便性向上が期待される。 ⑥CO2排出量の削減 ・自動車からのCO2排出量1,357(t-CO2/年)の削減が期待される。							
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 帯広市など1市5町2村の首長等で構成される「高規格幹線道路帯広・広尾自動車道早期建設促進期成会」等より早期整備の要望を受けている							
知事の意見： 高速ネットワークの拡充による道央圏・道東圏と十勝港の連絡強化により、地域間交流の活性化や物流の効率化が図られるなど、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。 なお、事業の継続にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト削減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。							

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成15年 3月 帯広・広尾自動車道 帯広ジャンクション～帯広川西インターチェンジ供用
- ・平成15年 6月 北海道横断自動車道 池田インターチェンジ～本別インターチェンジ供用  
本別ジャンクション～足寄インターチェンジ供用
- ・平成18年 2月 幕別町、忠類村が合併し幕別町が誕生
- ・平成18年 3月 帯広・広尾自動車道 帯広川西インターチェンジ～幸福インターチェンジ供用
- ・平成20年11月 帯広・広尾自動車道 幸福インターチェンジ～中札内インターチェンジ供用
- ・平成21年10月 北海道横断自動車道 占冠インターチェンジ～トマムインターチェンジ供用
- ・平成21年11月 北海道横断自動車道 本別インターチェンジ～浦幌インターチェンジ供用
- ・平成23年 3月 とかち帯広空港 帯広～東京線の2社乗り入れ（ダブルトラッキング化）
- ・平成23年 4月 十勝港 配合飼料コンビナートが本格稼動
- ・平成23年10月 北海道横断自動車道 夕張インターチェンジ～占冠インターチェンジ供用

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成20年度に工事着手して、用地進捗率91%、事業進捗率72%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

土配計画の見直し等により、コスト縮減を行っている。

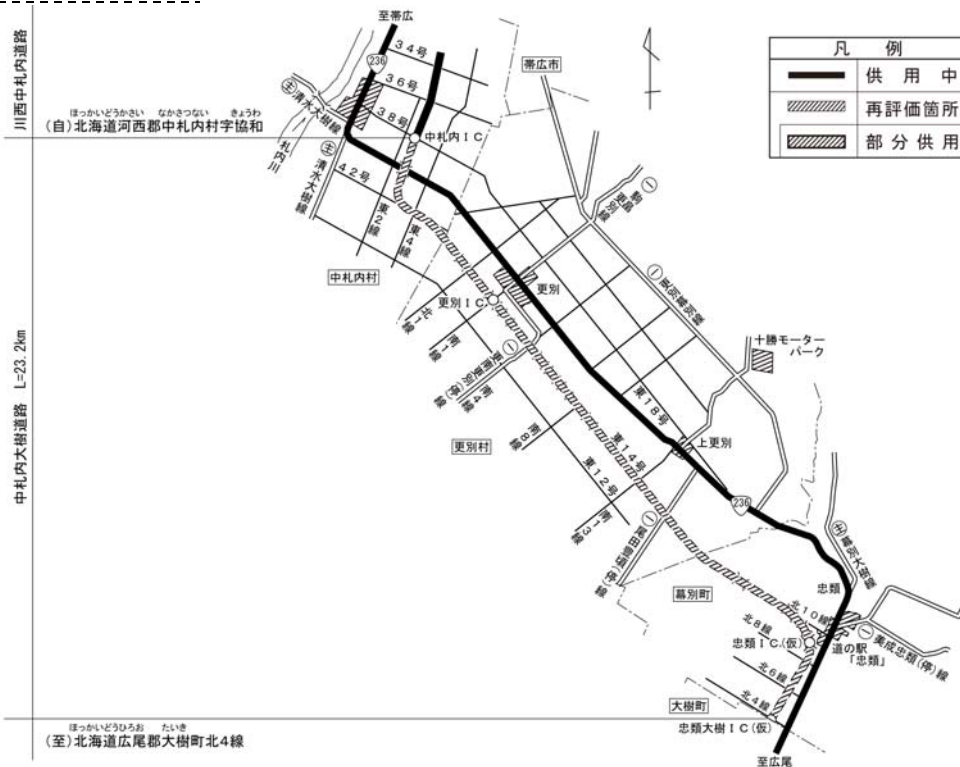
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。